



おはまし

おみぢげお団子

武田雪夫

ある日のこぎ、小栗鼠さんはチヨロくみ走つて、小兔さんのところへ遊びに行きました。

するま、小兔さんのお家の入口の戸は、ぴたりと閉つておりました。

『おや、お留守かしら。』

小栗鼠さんは、さういひながら、自分のまあるい小さな尻尾で、戸をたたくきました。

トシく、トシく、トシくトシ。

さうするま、お家の中から、可愛い聲で、

『はっい、たゞいま。』といつて、小兔さんが、ギイッ

戸を開けました。

『こんにちは、小兔さん。』

小栗鼠さんは、にこくして頭をさげました。小兔さんも、うれしさうに、

『こんにちは。まあ、あなたでしたの。さあ、お上りなさいな。』といひました。

小栗鼠さんは、小兔さんのお室へ入つて行きました。

するま、お臺所の方から、

『べたくトシく、べたくトシく。』といふ音が聞えました。

小栗鼠さんは、小兔さんに、

『あれ、な々に？』と聞きました。するま、小兔さんは、

『おうちの母さまよ。今日は、大へんおいそがしいんですつて。だから、わたし、ひごりで、おきなしく遊んでるたの。小栗鼠さん、ゆつくり遊んで行つてね。』こいひました。

それで小栗鼠さんは、小兎さんこ仲よくお人形さんごつこをして遊びました。小栗鼠さんは、ごんぐりに細い木の枝をさして、それに葉ツの着物を着せて、上手にお人形を作つてあげました。かはいごんぐりのお人形が、たくさんく出来るので、小兎さんは、大よろこびです。

そこへ、小兎さんのお母さんが、お臺所から出て來ました。

『さあ、お三時が出來ましたよ。』

さういつて、小兎さんのお母さんは、おいしさうなお園子を、ふたりにごつさり下さいました。小栗鼠さんも小兎さんも、「いたゞきます」をして、

『おどしい、おいしい。』さういつて食べました。

それから、小栗鼠さんこ小兎さんは、また仲よく遊びはじめました。ほんごうにくく仲よく、夕方になるのも知ら

ずに遊んでゐました。

するご窓から、まんまるなお月さまが、おのごきになりました。そして、

『小栗鼠さん、小栗鼠さん、もうお歸りなさい。お母さんが呼んでゐますよ。』ごおつしやいました。

『それでは、さやうなら。』

小栗鼠さんがさういつて、お家へ歸らうごしますご、小兎さんのお母さんが、

『これは、お母さんにおみやげですよ。』さういつて、お園子をごつさり、大きな葉ツばに包んで下さいました。

小栗鼠さんは、よろこんで、「ありがたうご」ごさよならをいつて、いそいでお家に歸つて行きました。

さんなに小栗鼠さんのお母さんは、よろこんだせう。

だつて、小兎さんのお母さんは、お園子を作るのがお上手です。ほんごにおいしいくお園子ですもの。おしまひ。

○ ○ ○